各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い

1　指導計画の作成に当たっては，次の事項に配慮するものとする。

(1)「コミュニケーション英語Ⅱ」は「コミュニケーション英語Ⅰ」を履修した後に，「コミュニケーション英語Ⅲ」は「コミュニケーション英語Ⅱ」を履修した後に，「英語表現Ⅱ」は「英語表現Ⅰ」を履修した後に履修させることを原則とすること。

(2)「コミュニケーション英語基礎」を履修させる場合，「コミュニケーション英語Ⅰ」は「コミュニケーション英語基礎」を履修した後に履修させることを原則とすること。

2　内容の取扱いに当たっては，次の事項に配慮するものとする。

(1) 教材については，外国語を通じてコミュニケーション能力を総合的に育成するため，各科目の目標に応じ，実際の言語の使用場面や言語の働きに十分配慮したものを取り上げるものとすること。その際，その外国語を日常使用している人々を中心とする世界の人々及び日本人の日常生活，風俗習慣，物語，地理，歴史，伝統文化や自然科学などに関するものの中から，生徒の発達の段階及び興味・関心に即して適切な題材を変化をもたせて取り上げるものとし，次の観点に留意する必要があること。

ア　多様なものの見方や考え方を理解し，公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと。

イ　外国や我が国の生活や文化についての理解を深めるとともに，言語や文化に対する関心を高め，これらを尊重する態度を育てるのに役立つこと。

ウ　広い視野から国際理解を深め，国際社会に生きる日本人としての自覚を高めるとともに，国際協調の精神を養うのに役立つこと。

エ　人間，社会，自然などについての考えを深めるのに役立つこと。

(2) 音声指導の補助として，発音表記を用いて指導することができること。

(3) 辞書の活用の指導などを通じ，生涯にわたって，自ら外国語を学び，使おうとする積極的な態度を育てるようにすること。

(4) 各科目の指導に当たっては，指導方法や指導体制を工夫し，ペア･ワーク，グループ･ワークなどを適宜取り入れたり，視聴覚教材やコンピュータ，情報通信ネットワークなどを適宜指導に生かしたりすること。また，ネイティブ・スピーカーなどの協力を得て行うティーム・ティーチングなどの授業を積極的に取り入れ，生徒のコミュニケーション能力を育成するとともに，国際理解を深めるようにすること。